

歴史博物館 昔あそび

・毎月第1土曜日 歴史博物館 紙芝居劇場

昔懐かしい自転車紙芝居です！いろいろな紙芝居を見ることができます。1日2回。

場 所：歴史博物館 1階

時 間：①13:30～ ②14:30～（各回30分程度）

・毎月第2土曜日 紋切りあそび 折り紙の金魚つり

型紙に折り紙をあてて切り抜くと、素敵な紋様ができます。できた紋様でオリジナルの暑中見舞いハガキを作れます(7～8月限定)！折り紙の金魚つりあそびもやっています。金魚以外の魚も…？

紙芝居劇場以外の昔のあそび体験については下記の場所と時間で実施いたします。

場 所：歴史博物館 1階

時 間：13:00～15:00

ナイトミュージアム を開催します

企画展開催中の期間を利用して、普段の開館時間内では来館できない方や、いつもと違った博物館の楽しみ方をしてみたい！という方のために、ナイトミュージアムを開催することとなりました。徳願寺所蔵の幽霊絵の写真パネル展示や、ちょっと怖い紙芝居の実演、考古博物館での巨大シーラカンズ拓本展示の他、コクジラの下での演奏会も実施しますので、この機会にぜひご来館ください。

※駐車台数に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

日 時：8月26日(土) 時 間：18:30～20:30

※都合により予告なく内容が変更・中止になる場合がございます。予めご了承ください。

ご利用案内

【時間】 9:00～16:30

【休館日】 月曜日(祝日の場合は翌日)

【入館】 無料、補助犬同伴可
車いす各館1台あり

【駐車場】 一般車30台

お体の不自由な方等の車両 各館1台あり
大型バスの利用不可

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、博物館および駐車場の利用時間が変更となる可能性があります。あらかじめご了承ください。



・毎月第3土曜日 火打ち石体験

火打ち石と火打ち金を使った火おこし体験です！
ろうそくに火をつけられるかな？

・毎月第4土曜日 紋切りあそび お手玉あそび

紋切りあそびの他に、お手玉あそびもやっています。お手玉のいろいろな技を磨いてみよう！

クジラの下でコンサート

フルートとチェロの演奏会

場 所：考古博物館 1階

時 間：19:30～20:05

紙芝居・絵本読み聞かせ

場 所：歴史博物館 1階

時 間：①19:00～ ②20:10～
(各回15分程度)



考古・歴史博物館だより

第67号

発行 令和5年7月

歴史博開館 40周年記念企画展 「みなさまと歩んだ博物館」

歴史博物館が開館してから40年が経ちました。博物館周辺も外環自動車道が開通するなど、景観が急変し市民も次の世代へと世代交代が続いています。今回の展示では、開館から現在までに開催した企画展の資料や収蔵資料を展示することにより、これまでの博物館活動を振り返ります。

展示構成

- | | |
|-----------------|-------------|
| I. 1980年代 | V. 館所蔵の |
| II. 1990年代 | 市指定文化財 |
| III. 2000年代 | VI. 館のあゆみ年表 |
| IV. 2010・2020年代 | |

期 間：令和5年

7月22日(土)～9月10日(日)

場 所：歴史博物館 2階特別展示室

関連行事

当館学芸員によるギャラリートーク

日 時：①7月23日(日) ②8月20日(日)

各回10時30分～11時15分

場 所：歴史博物館 2階特別展示室

【当館利用者の皆様へのお願い】

- ・体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。
- ・入口に設置している消毒液での手指の消毒をお願いします。
- ・見学の際、展示ケース等の館内の物には触れないようにお願いします。

市川考古博物館

〒272-0837

市川市堀之内2-26-1

☎ 047-373-2202

市川歴史博物館

〒272-0837

市川市堀之内2-27-1

☎ 047-373-6351



古代下総国の国・郡・里一下総国の範囲13—

今回も香取の海を取り上げたい。香取の海について8世紀に編纂された『常陸国風土記』(以下『風土記』)では、沿岸となる国内の郡ごとに表記する。信太郡では郡の東を「信太流海(しだのながれうみ)」、南を「榎浦流海(えのうらのながれうみ)」、茨城郡では南を「佐我流海(さがのながれうみ)」、行方郡では南と西を「流海」、香島(以下鹿島)郡では南を「安是湖(あぜのみなど)」、西を「流海」とする。また、『万葉集』では「奈左可能宇美(なさかのうみ)」と詠み、後世に「浪逆の海」の文字をあてた(『万葉集』巻19・3397)。

『常陸国風土記』の「流海」は、太平洋からの潮の干満に影響されるこの水域の状況を示した表記である。『万葉集』の「浪逆の海」は霞ヶ浦や北浦の開口部あたりのこととされるが、ここは鬼怒川からの流れも合流する場所で、満潮に至る時間帯は太平洋からの流れがぶつかり、水流が複雑になり波が立つ場所と理解できる。

ここで問題なのは「安是湖」である。岩波書店の日本古典文学大系『風土記』では、「湖」を「みなと」と読み、「水門の意。川が海に注ぎ入るところ。」と解説し、現在の利根川河口あたりとする。しかし、『風土記』を読むともう少し広い範囲で「安是湖」を捉えるべきことがわかる。『風土記』では、鹿島郡の南を「下総と常陸との堺なる安是の湖」と記し、「若松の浦は、即ち、常陸と下総と二つの国の堺なる安是の湖のあるところなり」とも記す。安是湖は鹿島郡の南側だけではなく下総・常陸両国の国境となるなど、地点というより広域に広がることがわかる。それは安是湖に若松の浦が含まれることからわかる。

『風土記』には「軽野の里若松の浜」とも記され、茨城県神栖市の太平洋沿岸とされるので、浦と浜に名を留める「若松」は軽野の里にあり、安是湖は軽野里に面していたことがわかる。軽野は『万葉集』で「刈野」とも記され、高橋虫麻呂が大伴卿なる人物(大伴家持の父旅人[たびと]とい

われる)を送別した歌の詞書(ことばがき、表題)に「鹿島郡の刈野橋にて大伴卿と別れし歌」とある(『万葉集』巻9・1780)。

その歌には
三宅の潟に さし向かう 鹿島の埼に さ丹塗りの 小船を設(ま)け (略) 夕潮 の 満ちのとどみに 御船子を 率(あども)ひ立てて 呼び立てて 御船出でなば (略)
の歌詞がある。大伴卿は船に乗って下総へ渡り、都へ戻るのだが、刈野橋は船に乗る込むために安是湖に架けられた栈橋のことで、刈野橋は鹿島の崎と詠われることから、安是海に突き出た場所にあったことがわる。神栖市息栖あたりであろう。船が向かう三宅の潟は千葉県香取市の黒部川河口あたりのことである。下流から上流に向かうため、夕方の満潮の流れをまって船出したことになる。まさに「流海」の流れを利用した船出であった。

この高橋虫麻呂の歌を参考にすれば、安是湖は太平洋の河口から神栖市息栖あたりまでの範囲、地形では下総・常陸両国の陸地によって香取の海の幅が狭くなっている一体のことを示すのであろう。田と田の仕切りの細長い道を畔というが、その細長い様が安是の語源であり、安是湖全体が香取の海の水門として意識されていたのではないか。香取の海を8世紀の文献資料から追うと、流海・海とされる域と湖(水門)とされる域からなっていたことがわかる。

引用文献『常陸国風土記』:岩波書店古典文学大系『風土記』
『万葉集』:岩波書店新日本古典文学大系『万葉集』2・3
図タイトル 『常陸国風土記』と『万葉集』からみた「香取の海」
出典:岩波書店古典文学大系『風土記』付図
(一部加除)
(考古博物館学芸員 山路 直充)

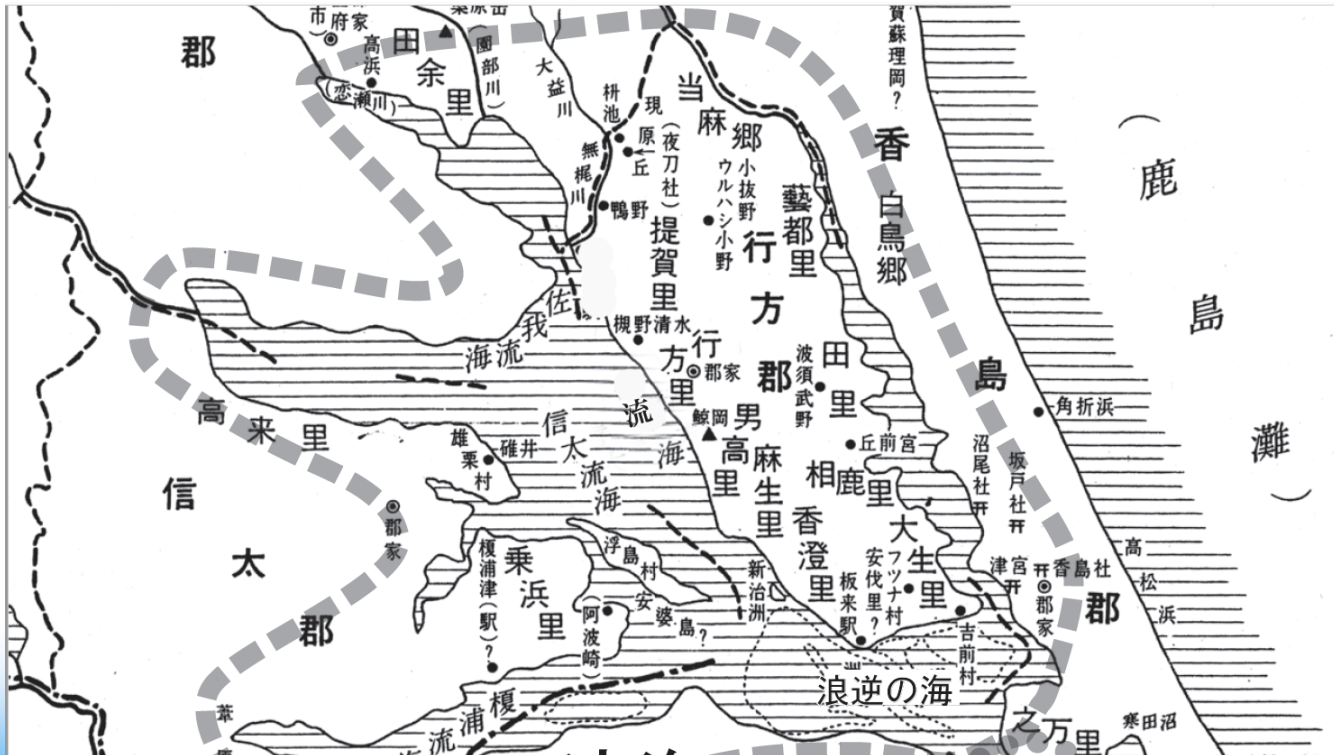


図1 『常陸国風土記』と『万葉集』からみた「香取の海」

行徳に落ち延びた北条遺臣たち

天正18年、豊臣秀吉は小田原北条氏の居城・小田原城を攻めるため、西の防衛ラインにあたる八王子城を上杉・前田軍に攻めさせた。八王子城は堅牢な城で有名で、山に囲まれた天然の要害である。しかし、北条軍は三千人、対して豊臣軍は1万五千人という圧倒的な兵力差をもって落城する。武将の夫人・侍女たちは滝から身を投げ、川の水は長い間血に染まり、川の水で米を炊くと赤くなったという伝説もある。城の守りに狩野親子がいたが、父・狩野一庵(大膳亮、または泰光)は息子・新右衛門を逃がし、戦死する。八王子で打ち取られた首級は北条軍の士気を下げるため、小田原の海から船の上に掲げられたと伝わる。

新右衛門はその後行徳にたどり着き、『葛飾誌略』によると、出家時期は不明であるが出家して浄天と名乗り、欠真間に源心寺を建立した。天文年間に開発が進んだ行徳地域はもともと北条方の土地にあたり、加えて寺社が多く立ち並んでいたため、ある種のアジール(権力の及ばない聖域)地域であったと考えられる。

源心寺の創立は慶長16年(1611)と伝わっているため、浄

天は小田原攻めから20年身を潜めていたのかもしれない。豊臣の世が終わり、徳川の世になってからようやく人心地ついたのだろう。その後、当代島の田中内匠とともに内匠堀を作り、行徳地域に貢献する。

さて、行徳には浄天以外に逃げ延びた北条家臣がいたと伝わる。常運寺の開祖の野地氏(常運院日信、久右衛門とも)も北条の遺臣と伝わり、野地氏は小田原城落城後、北条氏直の娘 勝姫を連れて行徳に逃げ延びたという。しかし、勝姫は自刃、または殺害され、その菩提を弔うために「勝姫龍神」が建てられたと伝わる。常運寺の創建が慶長20年(または元和2年、1616)とされ、源心寺と同じく徳川の世になってからの開山とされる。

『小田原氏所領役帳』に狩野氏は「狩野大膳亮 五十三貫四百三十文 江戸阿佐布」とあり、北条氏から麻布(現東京都)を所領されていたことが分かる。一方、野地氏については記されておらず、伝承以外で野地氏について知ることは難しい。狩野氏も野地氏も現在行徳地域に多く見られる名前である。

(歴史博物館学芸員 山岸 未来)



【写真1】狩野浄天墓